

## ふれあい教室体験実習

阿部 温

### 1 はじめに

本研究大会も今回で 17 回目となりました。これまでに、全国から多くの口頭発表やパネル発表がなされ、小学校・幼稚園における動物飼育や動物介在教育の有効性、教育的効果の向上を目指して実施してきました。また、教員・保護者・獣医師など様々な視点から意見交換や実践研究の発表など有意義な交流を深めてきました。

これまでの実践発表や科学的な視点からの調査により、学校で継続的に動物を飼育することで自尊感情や向社会性、責任感などに効果を示し、動物と継続的なふれあいを通じて心の発達を促すとともに、生命の神秘や不思議に気づき、観察力や思考力などが養われことが明確になっています。

動物飼育や動物介在教育の効果を最大限発揮するためには、子どもたちへの適切で丁寧な指導が重要であると考えています。動物飼育は知識と経験が必要で、実践的な研修が求められています。これを解消するために、現在では大学での教員課程や教員研修で動物の飼育方法やふれあいの仕方について、獣医師による講義や実習を行っている自治体が増えてきています。

群馬県獣医師会では、動物の飼育方法のあり方や、ふれあい方法、子どもたちと動物との関わり方などを体験して教育指導に役立てて頂くこと



を目的に平成 12 年の夏のワークショップから、毎年この「動物ふれあい教室体験実習」を実施してきました。

### 2 実施内容

(1) 群馬県の小学校や園で行っている「動物ふれあい教室」の体験学習について

紙芝居やパワーポイントなどを使い、ウサギとのふれ合い方や抱き上げるときの注意点を説明。ウサギは骨が弱く、突発的に飛び跳ねたりすることがあるので、子どもには必ず床に座って抱くようにしてもらいます。また、ウサギの歯や視野の特徴なども合わせて説明し、実際にウサギを抱いたり触れたりしながら観察することで理解を深めることができると考えています。

小学校で行う場合は、基本的にその小学校で飼育しているウサギを子どもに抱かせています。普段、飼育舎の外から見ているウサギと直に触れることで、ウサギの感触や重さ、ぬくもりを感じられ「生きているんだ」と実感することができます。実際、子どもにウサギを抱かせると最初はいやがっていた子も、友達がうれしそうに抱いている姿を見ているうちに、「自分もやってみる」と意欲を示すようになり、ウサギを抱けたときはとてもうれしそうな笑顔を見せてくれます。また、聴診器を用いてウサギの心音と自分の心音を聞き比べさせることで、鼓動の早さや大きさは違えども小さい動物にも自分と同じような心臓を持っていることを学び、生命の尊さ・神秘を感じることができます。

今回、希望者を対象にふれあい体験をしていたら、皆さんすぐに顔がほころび、「かわいい」、「あったかい」、「心臓が動いているのがわかる」など様々な感想をいただきました。今回の体験実習ではウサギが床で滑らないように、また膝から飛び降りても安心なように人工芝を持参し、そこに座ってもらいながら参加者にはウサギを抱い

てもらいました。ウサギを抱いている最中におしっこをしてしまうハプニングがありました。タオルを膝に敷いていたので直接汚れることはありませんでした。

小学校や園で指導する側も実際に動物とふれあい、特徴を知っておかなければ子どもたちへの適切な指導は困難と思われ。今回は体験される方が少なかった様に感じましたが、このような機会にたくさんの方に体験していただき、動物の習性や特徴を理解した上でご活用いただきたいと思えます。

### (2) ウサギを飼育するときの推奨飼育ケージの紹介

小学校で動物を飼育する場合、目的に応じた動物種の種類と飼育環境の改善が必要であると考えています。現状では屋外の飼育舎で飼育されていることが多く、飼育状況によっては展示動物のような位置づけになっている学校も見受けられます。学校指導要領には、継続的な飼育・栽培を行うことが明記されており、動物は命あるものと位置づけて飼育を実践することが求められています。

我々が2011年の発表の中で、屋外飼育と室内飼育では室内飼育の方が自尊感情に効果が認められることが分かり、生活科の動物飼育では室内飼育を推奨しています。

室内飼育を行うには、様々な課題があると思われ。毎日の飼育方や子どもとの関わり方、アレルギーなどへの配慮など。こういった課題の解決には、専門的な視点からのサポートが必要です。

室内飼育を実施するときは、子どもにも世話がしやすく、衛生的な環境に配慮した飼育方法を検討しなければなりません。そこで、床は網状で糞尿は下に落ち、下に落ちた糞尿は引き出すことで簡単に掃除ができる構造のものが勧められます。また、トイレには消臭効果のあるウッドチップを使用することで、臭いがかなり抑制されるので同一の部屋にいても気にならなくなります。

### (3) なんでも相談

「ウサギを捕まえるにはどうしたらいいですか」

人になれていなければ触ることも難しいです。また、ウサギの骨は非常に弱いので無理に捕まえ

ようとして暴れただけで骨折をさせてしまうことがあります。ゆっくり無理をせず、必要が無ければ捕まえようとしない方が良いでしょう。獣医師などに相談することをお勧めいたします。

「食事はペレットが中心でたまに子どもが持ってくる野菜を入れています」

ペレットは栄養素の面では優れたフードですが、高タンパク高カロリーで繊維質が少ないので、肥満や歯牙疾患になりやすいといえます。野菜は水分が多く繊維質は牧草に比べ少ないとされています。主食はあくまでも干し草とし、ペレットは軽く一握り程度の量を1日2回程度与えるのが望ましいです。

「ウサギがケンカしてしまう、増えてしまう」

オスとメスを分けて、できることなら個別に飼育することをお勧めします。オスメスを見分けるのは、慣れていけば可能ですが獣医師に相談するのが良いでしょう。

「子どもたちにも抱かせてみたい」

学校で飼育しているウサギは、抱っこを嫌がる子もいるかもしれません。おとなしく扱いやすい子を選んでください。また、ウサギは少しの高さから落下しても骨折することがあります。必ず座って低い位置で抱っこさせるようにしてください。しっかり膝の上で安定させ身体に密着するようにしてください。

このほかにも様々なご質問、ご意見をいただくことができ学校で抱えている疑問を知ることができました。

### 3 まとめ

この体験実習では、教員や保護者に実際にウサギとふれあい体験をしてもらうことで、指導する立場の方が実際に動物のぬくもりや命の神秘さを実感することが大切ということを感じてもらいたいと思います。この研究大会にご出席の皆様は学校動物飼育に対して熱心に意欲をお持ちの方ばかりだと思いますが、教職員全体でこの活動を支えていき、共有していくことが重要と考えます。ぜひ、今大会のような機会をご活用いただき、学校での指導、家庭での教育に役立てていただければと思います。